

昭和を代表する時代小説家・山本周五郎は、大正から昭和にかけて、20代前半の4年半を帝国データバンクの前身、帝国興信所の社員として過ごしました。わずかな期間ではありましたが、在職中に文壇デビュー、母や恋人の死、浦安への移住など、人生の大きな転機を経験しています。展示では、直筆の手記や短編小説などを展示し、取材記者としての山本周五郎前史を描くとともに、当時の帝国興信所の姿も映し出します。

自分の本名は三十六だが、いつまで経っても月給が三十五円じゃしょうがないといって友人を笑わせていた。

飯塚清談 木村久邇彦『山本周五郎 青春時代』より

とにかくあらゆる小説をよく読み、あらゆるものをよく学んで、ものすごく勉強していましたなあ。いつも紺の着物に袴、ボサボサの頭髪。典型的な貧乏文士のスタイルでしてね、滔々と文学論、芸術論をぶちまくる。

宅間清太郎談 木村久邇彦『山本周五郎 青春時代』より

今日は寝呆けた。それで社を休んだ。為事をした。
山本周五郎『青べか日記』より

生命の尊さ、生命の赤裸の相を判然と刻印せられたりと。

帝国興信所『震災手記』より



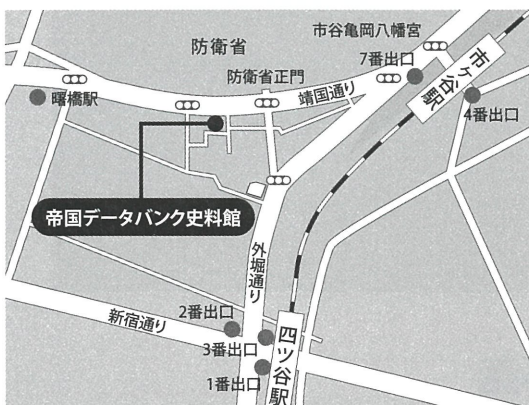
帝国興信所青年団主催の白馬岳登山に参加する周五郎（左から2人目）



周五郎が勤務していた帝国興信所本社（日本魂社）



関東大震災の1周年を記念して帝国興信所社員の感想を綴った『震災手記』左ページは周五郎（清水三十六）の手記



帝国データバンク史料館

事前予約制 入館無料

開館：火～金（祝日除く） AM10:00/PM13:30
会場：帝国データバンク史料館 常設展示室テーマ展示コーナー
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町14-3
TEL:03-5919-9600

交通機関

[JRご利用] 中央線・総武線 市ヶ谷駅 徒歩8分
中央線 四ツ谷駅 四ツ谷口から徒歩9分
[地下鉄ご利用] 南北線・有楽町線 市ヶ谷駅 7番出口から徒歩6分
都営新宿線 曙橋駅 A4番出口から徒歩9分
丸ノ内線・南北線 四ツ谷駅 2番出口から徒歩9分

2022/5/9
公式ホームページ
リニューアル

360° VR
史料館オープン

